

和光市協働事業実績報告書【平成26年度実施事業】

●事業概要

事業名	和光市湧水環境調査	
事業主体	事業実施団体	行政（担当課）
	NPO法人 和光・緑と湧き水の会	環境課
事業費	予算額	決算額
	499,500円	507,556円

事業内容 (実績)	(1) 調査事業(表1)				
	調査項目	調査目的	主要調査地域または調査対象	実施日程	参加者
	① 湧水環境の現状把握調査	a. 和光市内の湧水の分布・現況の把握	白子川水系、越戸川水系、谷中川水系の湧水・緑地における約40箇所の、湧水の状態、湧水量、水質、水温等	事業結果・スケジュール表参照	当会会員 毎回2~10名
		b. 湧水を取り巻く自然環境の把握	主要湧水地周辺の地形、地質、生態系	同上	同上
		c. 市内の重要緑地の維持と活用状況把握	大坂・新倉・上谷津ふれあいの森、樹林公園等	同上	同上
	② 井戸・地下水の状態把握、災害対応調査	a. 井戸・地下水の状態把握	市内5か所の井戸の形態、地下水位、水質、利用状況	6月9日 11月12日	当会会員及び環境課からの参加
		b. 河川と湧水流入状況の把握	白子川、越戸川、谷中川での湧水流入状況	8月7日 9月26日 各1日	各7名、6名
		c. 市内全域の井戸の利用状況と災害時利用の可能性の把握	99カ所の井戸、各所有者を訪問し聞き取り調査	市民環境部 環境課職員	
	③ モデル地区の継続的湧水環境調査	a. モデル地区における湧水環境の推移の把握	大坂ふれあいの森、富澤湧水；水環境と植物相調査	毎月1回	当会会員毎回 2~8名

(2) 調査成果公表活動(表2)			
活動項目	目的	実施日程	参加者
①調査結果発表 フォーラム	調査結果を発表し、得られた知見の共有化を図る	2015年1月31日、白子コミュニティセンター、白子湧水群	一般市民、行政関係者、当会会員 70名
②調査報告書 作成と配布	調査結果をまとめ、記録・公表・知見の共有に資する	まとめ2015年1~3月。同3月発行	会員(編集担当者7名)

●事業結果

	当初	実績		
事業スケジュール	資料①報告書より参照	2014年度湧水調査実施記録		
			日程	地域
		1	4/2	漆台カタクリ下見の時新倉小下方面調査
		2	4/6	カタクリ観察会。漆台洗い場。
		3	4/4	白子湧水群モニ1000
		4	3/30	神社の白子富士湧水の柵工事
		5	4/26	竹の子掘りの後に新倉小下、民家園、漆台
		6	4/27	つつじまつり熊野神社から白子湧水群観察会
		7	5/1	モニ1000
		8	5/11	白子川湧水調査。市民新報湧水調査掲載
		9	5/17	総会。樹林公園視察会
		10	6/5	モニ1000
		11	6/9	井戸調査5か所(環境課合同)
		12	6/15	全国一斉調査(白子川、白子の滝他3か所)
		13	6/27	午前:坂下湧水めぐり 午後:白子モニ1000(7月)
		14	7/24、27	白子湧水、樹林公園、(中学生ボランティア体験)
		15	8/3	重点調査
		16	8/7	白子川歩き・水量、採水など
		17	8/23	新倉ふれあいの森湧水調査(中学生ボランティア体験)
		18	8/26	新倉地域湧水調査、越後山方面調査
19	9/3	モニ1000		

	20	9/6	白子湧き水たんけん隊	
	21	9/7	加山宅湧水の川聞き取り、周辺環境、湧水調査	
	22	9/16	白子地域湧水調査、白子の滝、熊野神社、滝坂等	
	23	9/25	越戸川調査	
	24	10/4	重点地区調査	
	25	10/15	湧水採水・検査	
	26	10/18	新倉周辺湧水地調査・午王山など	
	27	10/27	地下鉄操車場内七ツ釜、ひょうたん池等	
	28	11/5	重点調査、環境課、市民活動推進課合同	
	29	11/12	井戸調査	
	30	11/18	環境課とフォーラム打ち合わせ	
	31	11/20	会報「自然保護」原稿提出。 八雲台憩いの森調査	
	32	11/26	広報わここの原稿を環境課へ。報告書原稿執筆継続	
	33	12/6	重点地区モニ 1000 調査（二宮さん講師）	
	34	12/8	市民新報社にフォーラム、白子川調査原稿提出	
	35	12/9	中間報告会、フォーラム打ち合わせ	
	36	1/10（2015年）	重点調査	
	37	1/31	緑と湧き水環境フォーラム・和光開催	
	38	3/5	和光市湧水環境調査報告書発行	
	39	3/6～	和光市の行政、埼玉県水環境課他、富澤家他配布	
	40	3/31	事業完了後報告書作成	
	事業変更理由	<p>種々の調査日程において、天候の影響があり、調整した。</p> <p>また、報告書の作成において、調査地の状況を示す多くの写真が必要となり、カラー印刷としたため、予算上業者による印刷製本が出来ず、会員による作成となった。予算は、プリンター・トナーおよび上質紙の購入に充てられ、ほぼ予算内で出版できた。原稿作成や印刷、製本等ほぼ無償のボランティアで行った。</p>		

●事業成果指標

		当初	実績
団体	事業成果指標	湧水環境調査についての総合的知見の有用性。水環境問題における行政課題への寄与。湧水とそれを取りまく環境に対する市民認識の向上。調査結果のコストパフォーマンス。	いずれも、ほぼ満足する結果が得られた。 環境フォーラム開催では、和光市内外、県の行政、県外から多数参加があり湧水情報の広がりが見られた。

	コメント	市民参加、協働事業による「調査活動」により、情報の共有などの事業の有効性が得られた。	
担当課	事業成果指標	フォーラムの参加人数 40～60名 調査報告書の作成と配布	フォーラムの参加人数 約70名 報告書を作成し関係者に配布した。
	コメント	フォーラムは、大勢の参加者にお越しいただき盛況であった。また、有意義な発表と活発な意見交換が出来た。	

事業を実施し、想定以上の効果があったか。	団体	調査内容が、湧水、緑地、河川、井戸を総合的にとらえた充実した内容となった。(報告書参照)
	担当課	

●協働の結果

(1) プロセスの積み重ね

	団体	担当課
①事業進捗状況の報告を行っていましたか。	はい	はい
②問題が生じたときに、すぐに話し合えましたか。	はい	はい

(2) 事業の広がり

協働事業の実施により、新しいつながりや連携が構築された場合、その内容を具体的に下の左欄に記入し、このつながりや連携を今後の協働事業の展開にどのように活かそうと考えているかを右の欄にご記入ください。

団体	【具体的内容】 調査中に地域の人達との交流があった。井戸所有者との交流があり、次回も井戸調査や地域の歴史調査にも発展していく可能性がある。	【つながりや連携の活用】 今後の市民参加の観察会などで、見学や、調査結果の利用が可能。また、湧水重点調査や井戸調査など続ける調査もある。
担当課	15年振りに井戸の所有者への現況確認を実施し、井戸所有者との連携が図られた。	今後の災害時等に、今回調査した井戸の活用が期待できる。

(3) 市民満足度の向上

	団体	担当課
事業の受益者の満足を得ることができましたか。	はい	はい

「はい」と答えた方は、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを、下欄にご記入ください。

団体	<p>調査中多くの地域の方との交流があった。</p> <p>湧き水や緑地の重要性の理解が進んだ。</p> <p>この様な湧水の調査は、和光市を知る上で重要視されている。今回の調査では、市民全体までは広がらないが、ある程度の重要性の理解が進んだ。</p> <p>フォーラムにおける質疑で、有用な情報との評価が得られた。</p>
担当課	<p>この事業は、人を対象とした事業ではないため、直接的な受益者はいないが、今後の事業展開により、受益者が発生するものと考えている。</p>

(4) 協働基本原則

「和光市協働指針」では、市民と市が協働を円滑に進めていくための以下の6つの基本原則を定め、これをお互いが理解し、常に協働基本原則に則って取り組んでいくこととしています。これらに則って事業に取り組みましたか。

	団体	担当課
①「相互理解の原則」	はい	はい
②「目的・評価共有の原則」	はい	はい
③「自立の原則」	はい	はい
④「対等の原則」	はい	はい
⑤「役割分担明確化の原則」	はい	はい
⑥「情報公開の原則」	はい	いいえ

役割分担について

	当初	実績
団体	<p>調査地を項目別にし、会で出来ることと行政が主導することに分けている。</p> <p>調査地の中で、井戸調査地は個人宅の中にあり、地域の選定や調査日などは環境課が行った</p>	<p>井戸や地下鉄の手配や調査の協働参加。市内全域約100か所の井戸調査が環境課により行われ、当会の湧水調査を含めた水環境に関する総合的知見として網羅された。</p>
担当課	<p>湧水・井戸の利用状況と災害時利用の可能性の把握、私有地における調査支援、情報提供、広報・周知</p>	<p>予定どおり取り組めた。</p>

役割分担の中で良かった点や改善点をご記入ください。

団体	井戸や地下鉄の手配や調査の協働参加。 環境課による充実した井戸の現況調査が実現した。
担当課	専門的な調査と個人宅を訪問する調査を役割分担したことにより、スムーズに調査が実施できた。

協働事業の実施にあたり、どのようなメディアを活用して事業のPRをしましたか。その代表的事例を左欄に記入し、また、協働事業の実施により、事業の社会的認知度が向上したかどうかを、右の欄にその理由と併せてご記入ください。

団体	<p>【PR事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会報の発行と継続。 • 地域新聞「市民新報」2014年6,12月、2015年4月に調査の様子を紹介。 • フォーラムの広報は、日本自然保護協会の会報誌「自然保護」に掲載。 • NPO 法人自然観察指導員埼玉の会報誌「荒川通信」に掲載。 • 彩の国みどりのボランティアメールで広報。 • フォーラムの開催を広報わこうに掲載。フォーラムには、市内外から多数の参加者。他市での環境活動を実施している関係者が多数参加。 	<p>【社会的認知度の向上】</p> <p>市内外から多数の参加者が得られ、湧水に関する認知度の向上が実感された。他市で環境活動を実施している関係者の参加が多数あった。</p> <p>2013年度埼玉県水環境課への調査協力と報告会へ当会から参加し、今回の和光市湧水調査への関心が得られ、フォーラムでの協力が得られた。</p> <p>出版した報告書に対して、市内を網羅した情報と解説があり、今後に向けての貴重な資料として期待されている。</p>
----	--	---

情報公開について、どのような手段で情報発信をしましたか。

担当課	受託者が作成した本調査の報告書をフォーラム等で配布し、PRを行った。
-----	------------------------------------

(5) 協働の成果

協働することで、団体、市、市民それぞれにどのようなメリットがありましたか。

団体	<p>【団体のメリット】</p> <p>市内全域の水環境についての認識が高まり、今後の保全や観察会などの活動に有効。</p>
	<p>【市のメリット】</p> <p>市内の緑地や湧水の保全に有用な知見を得た。井戸水、湧水などの防災・減災利用の道が開けた。</p>

	【市民のメリット】 今後の観察会などで情報が提供され、また、防災行政に生かされる可能性がある。
担当課	【市のメリット】 この事業は、協働で実施することにより、市単独ではなし得なかった調査結果やそれに対する知見が得られた。

【ヒアリングより】

- ・東京地下鉄車両基地の調査は、営団の時よりも実施が厳しくなっていたが、市との協働により、調査が可能となった。

事業を実施したことで、改善が必要だと思われること、思ったとおりできたことは何ですか。

団体	継続的な調査の必要性。 調査の実施においては、人的交流や情報交換などを円滑に行うための、最小限の飲食代や、謝金、交通費等の予算が必要。ボランティアはすべて自費・無償では進めにくく、やりがい担保する必要がある。
担当課	本調査を行ったことで、あらためて地下水保全の重要性を認識した。今後の施策の展開にあたり考慮していきたい。

(6) その他

上記以外で、協働事業の成果として特にアピールしたいものがあれば、下の左の欄にご記入ください。また、それが今後の協働事業の発展にどのように貢献すると考えているか、右の欄にご記入ください。

団体	【成果のアピール】 充実した調査結果が得られた。 作成した報告書は、和光の環境にとって重要な情報が集約されている。資料①	【事業の発展への貢献】 その結果を活かす保全、観察会、フォーラム、勉強会、学校教育での活用などの事業が継続して実施できることが必要。
----	--	---

協働事業を実施した率直なご感想をご記入ください（良かった点、苦勞した点、印象に残っていること、事務量の変化・協働に対する意識の変化等があったか等）。

担当課	調査を進めていくうえで、多くの市民と話をすることができ、市民ニーズを把握することができた。今回調査した結果を有効活用し、市の施策として具体化することが必要である。
-----	---

【ヒアリングより】

- ・このような調査は、実施することも当然大事だが、記録として残すことが大事であると改めて感じた。

- 想定していたよりもトラブルが少なかった。井戸の所有者も非常に協力的であり、調査書への名前等の記載も承諾していただけた。
- 謝礼について、外部の講師だけではなく、内部において十分知見を有する者に対しても少しでも良いから、出せると良いと思う。
- 15年前に行った調査が「ふれあいの森の」整備につながったことから、今回の調査も何かのきっかけになることを期待する。
- この調査結果を、環境課以外の市職員（管理職や新入職員等）にも知って欲しい。
- この調査を通し、地域住民と交流を持つことができるようになった。この関係性を大切にして行きたい。